

資材天覽説明言上案(甲及乙案)

注意

- 一 天覽必目ノ順序ニ記載シアリ
- 二 本書中(一)印ヲ附シタル箇所ハ乙案ノ爲特ニ改ムヘキ
点ヲ示ス
- 三 説明所要時間ハ殿ニ調製部隊ヨリノ原稿ノ終ヲ掲ケア
リ 從テ其ノ合計ハ必スシメ計画案ノ配當時間ト一致
シテラサルモノアリ

技術本部長御説明事項		事項	
總務部	所要時間	此處ニ配列致シマシタルモノハ個人ノ裝備若 ハ使用致シマスル兵器デゴサリマス	
個人用兵器			

2766

技術本部長御説明事項 總務部	事項 御説明言上案 時所要	九二式防彈具 次ノ（指ス）九二式防彈具ト申シマスルハ拳銃並中距離ヨリスル小銃彈ニ對シ兵員ノ胸腹部ヲ防護致シマスルモノデ往昔ニ於ケル武士ノ鎖帷子ニ相當スルカト存ゼシレマス、厚サ一八釐ノ特殊鋼板ノ胴ト並トニ分ケテ身体屈伸ノ自由ヲ保チ木綿ニ綿ヲ填實シタル袴ヲ附シテ衝撃ノ緩和ニ供シテ居ル次第デゴザリマス 九二式防彈具 重量 三斤六五 厚サ 一釐八
-------------------	---------------------	--

2767

技術本部長御説明事項

總務部

事項御説明言上案

時所要

携帯用ノ防楯ハ斯様ニ指ス輕、重ノ二種類ガ
ゴザリマシテ輕防楯ハ片手ヲ以テ携行シ小銃彈
ニ對シ兵員ヲ掩護スル用ニ供シマス 材質ハ厚サ
サ四糎ノ特殊鋼板デ百五十米以上ノ距離ヨリ射
撃スル普通ノ小銃實包ニ堪ヘルコトガ出来マス

九三式輕防楯

重量 三斤

厚サ 四糎

防弾距離（普通實包）約一五〇米

九三式輕防楯

九三式重防楯

重防楯ハ近接戦闘用トシテ至近ノ距離ニ於テモ
兵員掩護ノ目的ヲ達スル爲ノモノデ御座リマシ
テ厚サ六糎ノ特殊鋼板ヨリ成リ二十五米ノ距離ニ
於テ尚七糎七口徑小銃ノ普通實包ニ堪ヘルコトガ出
来マス 本防楯ハ紐ニ依リ首ニ懸テテ携行致シ
マス

九三式重防楯

重量 八斤

厚サ 六糎

防弾距離（普通實包）約二五米

技術本部長御説明事項		總務部										
事項	御説明言上案	時所要										
之ハ（指ス）下士官以下ノ軍刀デゴザリマシテ 今回將校用軍刀ノ改正ニ應ジ之亦我國古來 ノ日本刀ヲ基礎トシ且從來ノモノニ比シ操用 及切味ヲ一層良好ニスル爲特ニ重心位置、反等 ニ注意シテ改良致シマシタルモノデ御座リマス												
試製九五式軍刀 <table><tr><td>全備重量</td><td>一六三〇斤</td></tr><tr><td>刀身重量</td><td>一、一三〇斤</td></tr><tr><td>全長</td><td>九六〇糎</td></tr><tr><td>刀身長</td><td>六七八糎</td></tr><tr><td>重心位置</td><td>九二糎（鐔元ヨリ）</td></tr></table>			全備重量	一六三〇斤	刀身重量	一、一三〇斤	全長	九六〇糎	刀身長	六七八糎	重心位置	九二糎（鐔元ヨリ）
全備重量	一六三〇斤											
刀身重量	一、一三〇斤											
全長	九六〇糎											
刀身長	六七八糎											
重心位置	九二糎（鐔元ヨリ）											

技術本部長御説明事項

總務部

事項

御説明言上案

所要時間

拳銃ハ從來此ノ（指ス）二十六年式拳銃が主トシテ使用セラレテ居ツタノデゴザリマスルガ其機構が旧式ニ屬シ威力が足りマセヌノデ此ノ二種類ヲ制定セラレマシタ^ルモ十四年式ノ方（指ス）ハ下士官以下が使用シ稍小型ノ九四式ノ方（指ス）ハ將校が用ヒマスモノデ御座リマス
其實包ハ両方共通デ威力ハ各國ニ於ケル優劣ナ^ル此種拳銃ニ匹敵スルモノデ御座リマス

九四式拳銃

十四年式拳銃

（實包共）
二十六年式拳銃
ヲ附帶陳列ス

各種拳銃

諸元	銃種	重量（キ）	口径（ミ）	初速（米）	最大射程（米）	彈藥	侵徹威力
二十六年式拳銃	拳銃	九〇四	九	一五〇	一、〇〇〇	二十六年式拳銃實包	杉板ヲ一〇〇米ニテ三〇糎侵徹
十四年式拳銃	拳銃	八九〇	八	三三四	一、六〇〇	十四年式拳銃實包	杉板ヲ四〇〇米ニテ四〇糎侵徹
九四式拳銃	拳銃	七三〇	八	二九〇	一、六〇〇	十四年式拳銃實包	半乾燥松板ヲ四〇米ニテ一四〇糎侵徹

技術本部長御説明事項

總務部

事項御説明言上案

時
間

此ノ（指ス）機關短銃ニ新拳銃一同一ノ實包ヲ使
用致シマスル自衛用兵器ヲ御座リマスルガ拳銃ニ
比シ威力ニ大デ且速發シ得ル機構ヲ有シ近ク其
研究ガ完了スル豫定デゴザリマス

試製
機關短銃

試製機關短銃	
重量（空彈倉共）	三、四三〇用
口徑	八耗
全長	六二〇耗
初速	三三五米
發射速度 緩（一分間連發） 急（五分間連發）	四〇〇發 六〇〇發
彈倉收容彈數	五〇發
給彈裝置	箱彈倉式
自動様式	反動利用式
彈藥	十四年式拳銃實包

2771

技術本部長御説明事項

總務部

事項御説明言上案

所要時間

試製自動小銃

查ノ結果ニ待ツ次第デゴザリマス

試製自動小銃			
諸元銃種	甲	乙	丙
重量(土發彈倉裝込)	四、二五〇	四、二二〇	四、〇九〇
口徑	六・五	六・五	六・五
全長	一、〇六〇	一、〇八〇	一、〇六〇
初速	七三五	七二五	七四〇
發射速度	約三〇	約三〇	約三〇
最大射程	米約三、五〇〇	約三、五〇〇	約三、五〇〇
彈倉樣式	圓型固定箱彈倉式	箱彈倉式	箱彈倉式
自動樣式	反動利用式瓦斯利用式	反動利用式	反動利用式

2772

㊦

技術本部長御説明事項

總務部

事項御説明言上案

時間要

八九式重擲彈筒
携行姿勢カト發射
姿勢ノモノト又使
用彈藥ヲ陳列

此ノ(指ス)八九式重擲彈筒ト申シマスルハ歩
兵ノ近距離拋射火器トシテ此ノ(指ス)榴彈ヲ使
用致シマスルモノデ一人ニテ操用シ灣曲シタル彈道
デ七百米附近ヨリ至近距離ノ間ヲ射撃スルコトカ
出來其彈丸效力ハ破裂點ノ周圍十米半徑二十
分ナル殺傷效力ヲ期待スルコトガ出來ルノデ御座
リマス又本擲彈筒ヲ以テ此處ニ御座リマスル(指
ス)十一年式火手榴彈、燒夷彈、照明彈フモ使用
シ得マスルノミナズニ等(指ス)各種信號彈ヲモ空中
ニ破裂セシメラ部隊相互間ノ通信連絡用ニモ使シ得マ
スルノデ御座リマス
コテラハ(指ス)携行姿勢デ之ハ(指ス)發射ノ
際ノ姿勢カデ御座リマス

八九式重擲彈筒		八九式榴彈性能表	
重	量 四匁七〇〇	彈	量 八〇〇瓦
口徑	五〇糎	炸藥量	一五〇瓦
最大射程	六七〇米	炸藥種	茶 褐 藥
主要彈種	八九式榴彈	信	管 八八式小斷發信管
其他	照明彈、發煙彈、各種 信號彈、十年式火手 榴彈等ヲ使用スルコトヲ 得	威力半徑	約 一〇米

技術本部長御説明事項 第一部	事項 御説明言上案	所要時間
一般火器 (緒言)	此處ニ陳列致シテ御座リ マスノハ一般火器類ヲ御 座リマス	5"

2774

技術本部長 御説明事項

第一部

事項

御説明言上案

所要時間

此ノ輕機関銃ハ目下審査中ノ新樣式輕機関銃ヲ御座リマス現制ノモノニ代ル目的ヲ以テ重量ノ輕減構造機能ノ簡單操用ノ便射撃機能ノ良好教育ノ容易ト謂フ様ナコトヲ主眼トシテ設計致シマシタモノヲ御座リマシテ重量ハA案約八飛B案約九飛何レモ瓦斯利用式ヲ實包三十發ヲ收容スル箱型ノ彈倉ヲ使用致シマス

試製輕機関銃
《甲案ノ三》

試製輕機関銃

諸 元 種	重 量 (彈 倉 共) (磅)	口 徑 (吋)	全 長 (吋)	初 速 (呎 毎 秒)	發 射 速 度 (發 毎 分)	最 大 射 程 (呎)	姿 勢 高 耗	自 動 樣 式
A 號 銃	八・五〇	六・五	一・一五〇	七・四五	約 六〇〇	約 三・五〇	低 三 二 八〇	瓦斯利用式
B 號 銃	九・四五〇	六・五	一・〇一五	七・三五	約 五〇〇	約 三・五〇	低 三 二 九〇	瓦斯利用式

技術本部長 御説明事項

第一部

事項

御説明言上案

九〇式野砲放列姿勢概テ御座リマス（現物ヲ指ス）
口径ハ七五糎、最大射程ハ九〇式尖鋭彈（現物ヲ指ス）
ヲ以テ一四〇〇米デ御座リマス
砲身ハ單因自緊砲身ヲ採用シ砲口制退機ヲ附
シテ御座リマス駐退復坐機ハ水壓駐退機、空
氣復坐機ヲ分離併列シテ御座リマス
砲架ハ高低、方向射界ヲ増大致シマスタノ関脚
式ヲ採用致シテ居リマス
近世ノ野戰火砲ハ其ノ特種ノモノヲ除キ技術上概
ネ此ノ様式ヲ採用致シテ居リマス但シ砲口制退機
ハ本砲ノミニ限リマス（現物ヲ指ス）
（御説明間装填方向高低、附興及發射操作ヲ
行フ）

九〇式野砲

九〇式野砲	
口径	七五糎
彈種彈量	尖鋭彈 六壯 三七〇
初速	六八〇米
最大射程	一四〇〇〇米
高低射界	正 四三度
方向射界	五〇度
發射車重量	一四〇〇〇 觔
運搬様式	三聯繫駕

55"

2776

技術本部長 御説明事項

第一部

事項 御説明言上案 所要時間

試製九四式山砲放列姿勢及駄載姿勢ヲ御座
リマス(現物ヲ指ス)
現制四一式山砲ニ代ルヘキ山砲トシテ試製セラレタルモノ
デ御座リマス
口径ハ七五糎、最大射程ハ九〇式尖銳彈(現物ヲ指ス)
ヲ以テ約八三〇米デ御座リマス
運動ハコソニ御座リマスル如ク分解ノ上六馬ニ駄載
致シマスル(現物ヲ指ス)外後脚ヲ脱シマシテ轆桿ヲ
取付ケ(現物ヲ指ス)一馬若クハ縱ニ馬繋駕ヲ致シ
マス又兵員ニ依リマシテ分解搬送ヲモ致シ得ルノ
デ御座リマス
(御説明間装填方向高低附典及發射操作ヲ
行フ)

試製九四式山砲

口徑	七五糎
彈種	尖銳彈六呎三四〇
初速	三九二米
最大射程	約八三〇米
高低射界	負一〇度 正四五度
方向射界	四〇度
放列砲車重量	五三六呎
運搬様式	六馬駄載及一馬若クハ縱ニ馬繋駕又人カ分解搬送

試製九四式山砲

技術本部長 御説明事項

第一部

事項

御説明言上案

試製九五式野砲放列姿勢ヲ御座リマス(現物ヲ指ス)
 九〇式野砲ヨリ威力ハ小テ御座リマスガ更ニ輕量
 ナルモノテ御座リマス
 口径ハ七五糎 最大射程ハ九〇式尖銳彈(現物ヲ指ス)
 ヲ以テ約一、七〇〇米ヲ御座リマス
 (御説明間装填方向高低附共及發射操作ヲ行
 フ)

所要
時間

試製九五式野砲

試製九五式野砲

口徑	七五糎
彈種彈量	尖銳彈六發三四〇
初速	五二〇米
最大射程	約一、七〇〇米
高低射界	負八度—正四三度
方向射界	五〇度
放列砲車重量	約一、一〇〇斤
運搬様式	三聯繫索駕

30"

一ノ五

2778

技術本部長 御説明言上案

第一部

事項

御説明言上案

所要時間

試製九五式野砲彈藥車ヲ御座リマス(現物ヲ指ス)
彈藥ハ前車ニ四〇發後車ニ六〇發合計一〇〇發ヲ積載致シマシテ三聯繫駕ヲ以テ運動致シマス

試製九五式野砲
彈藥車

(甲案ノミ)

試製九五式野砲彈藥車

積載彈藥數 一〇〇發(彈藥匣三五)
接續彈藥車重量 尖銳彈一八五一聯
運搬樣式 三聯繫駕

17"

2779

技術本部長 御説明事項

第一部

事項

御説明言上案

所要時間

試製九四式
軽迫撃砲

試製九四式軽迫撃砲放列姿勢、車載姿勢、及馱載姿勢、御座リマス（現物ヲ示ス）
瓦斯放射並ニ榴弾射撃ニ併用致レマスル迫撃砲デ御座リマス
口径ハ九〇糎五、最大射程ハ試製九四式榴弾ヲ以テ三八八〇米ヲ御座リマス
構造ノ特徴ハ滑腔砲身ヲ使用シ從テ有翼彈現物ヲ示ス）ヲ放射致レマスコト、装填様式ハ前装式デ、点火様式ハ墜落式デ御座リマス、斯ノ如キ砲架様式ニ於テ駐退機ヲ有スレトテ御座リマス（現物ヲ示ス）
薬盒ノ増減ニヨリ七種ノ変装薬ヲ採用シテ居リマス（現物ヲ示ス）高低射界ハ射角四五度乃至八〇度ニ及ヒマスル故ニ充分曲射ヲ為スコトカ可能デ御座リマス
（御説明間装填方向、高低附具及發射操作ヲ行フ）

70"

試製九四式軽迫撃砲

口径	九〇糎五
彈種	榴彈五種ニ六〇
初速	八一米—二二六米
最大射程	三八八〇米
高低射界	正四五度—正八〇度
方向射界	誘導螺ニヨルトキ （射角四五度ニテ三五度） （射角六〇度ニテ三〇度）
放列砲車重量	約一五九斤
運搬様式	車載及馬半駝載又ハ人分解搬送

本術本部長御説明言上案

第一部

事項 御説明言上案

所要時間

九一式十糧榴弾砲放列砲車テ御座リ
 マス(現物ヲ指ス)野砲ト共ニ師團砲兵休
 系内ニ入ルヘキ所謂輕榴弾砲テ御座リマ
 ス
 口径ハ一〇五糎、最大射程ハ九一式尖銳彈
 (現物ヲ指ス)ヲ以テ一、八〇〇米テ御座リ
 マス
 御説明開閉鎖機開閉方向高低附
 典及發射操作ノ行フ

九一式十糧榴弾砲
 (甲案ノミ)

九一式十糧榴弾砲

口徑	一〇五糎
彈種	尖銳彈一五聯七六〇
彈量	三二〇米—四五四米
初速	一〇、八〇〇米
最大射程	負五度—正四三度
高低射界	四〇度
方向射界	約一五〇〇聯
放列砲車重量	三騎繫駕
運搬様式	

25"

技術本部長 御説明事項

第一部

事項

御説明言上案

所要時間

試製九二式
十糧加農

試製九二式十糧加農ノ放列姿勢ヲ御座
リマス(現物ヲ示ス)
野戦重砲用加農ヲ御座リマス
口径ハ一。五粒最大射程ハ九一式尖銳彈
(現物ヲ示ス)ヲ以テ一八、二〇。米ヲ御座リ
マス
放列砲車ノ重量ハ三、七〇。キログラム運動ハ機械
牽引ニ依リマス
(御説明間閉鎖機關開閉、方向高低附典
及發射操作ヲ行フ)

試製九二式十糧加農

口径	一。五粒
彈種彈量	尖銳彈一五粒七六。
初速	七六四米七
最大射程	一八、二〇。米
高低射界	負五度正四五度
方向射界	三六度
放列砲車重量	三、七〇。キログラム
運搬様式	機械牽引

25"

丁九

2782

技術本部長 御説明事項

第一部

事項 御説明言上案

所要時間

試製九二式十糧加農彈藥車ヲ御座リ
マス（現物 指入）
彈藥ハ一輛ニ廿四發ヲ積載シニ乃至三
輛連結ト致シマシテ試製九二式五馬力牽
引車ニ依リ牽引致シマス

試製九二式十糧
加農彈藥車
（甲案ノミ）

試製九二式十糧加農彈藥車

積載彈藥數 二四發
全備重量 一、六五〇 觔

18"

2783

技術本部長 御説明事項 第一部

事項 御説明言上案 所要時間

八九式十五糎七農ノ放列姿勢ヲ御座リマス
 (現物ヲ指シ) 野戦及攻城ニ使用致シマスル装
 輪式重砲ノ一種ヲ御座リマス
 口径ハ一四九糎ニ、最大射程ハ九三式尖銳彈
 (現物ヲ指ス)ヲ以テハ一八、二〇〇米ヲ御座リマス
 放列砲車重量ハ一〇、四二二斤運動ハ砲身
 車、砲架車ノ二車輛ニ分解シテ機械牽引
 ニ依リマス
 (御説明間、開鎖機、開閉、方向、高低附與及
 發射操作ヲ行フ)

35"

八九式十五糎七農

口径	一四九糎
彈種	四〇斤三〇〇
初速	七四三米
最大射程	一八、二〇〇米
高低射界	負五度—正四三度
方向射界	四〇度
砲列砲車重量	一〇、四二二斤
連搬様式	砲身車、砲架車ニ分解シ 機械牽引

技術本部長 御説明事項

第一部

丁二

事項

御説明言上案

所要時間

試製九四式
壓縮空氣唧筒車
(甲案ノミ)

試製九四式壓縮空氣唧筒車ヲ御座リ
マス(現物ヲ指ス)
本唧筒車ハ火砲ノ復坐機及平衡機等
ニ充填スヘキ高壓空氣ノ戔線ニ於ケル製造
及運搬補修ヲ目的ト致シマシテ前車ニハ
壓縮空氣ノ罐ヲ積載シ後車ニハ壓縮空氣
機關ヲ積載シテ御座リマス
全備重量ハ二八九〇觔運動八九二式牽引
自動貨車ニ依リ其運動速度ハ時速二〇
料ヲ限度ト致シテ居リマス

試製九四式壓縮空氣唧筒車

空氣唧筒 形式 最高電氣圧 二〇〇気壓 容 量 毎時六〇立 形式 堅形三段壓縮式	發動機 形式 軸馬力 七 唧筒ト直結ス 形式 堅形氣筒四衝程式	後車全備重量 一八五〇觔 前車全備重量 一〇四〇觔(氣筒金 十本共) 運搬様式 機械牽引
---	--	---

3.5"

2785

技術本部長	御説明事項	第一部
事項	御説明言上案	所要時間
一般火器 (結言) 以上各種一般兵器類ハ其ノ全 般ノ体系ニ於テ世界各國ノモ ノニ比シ寧ロ優秀テアリマシ テ尚銳意補備修正ヲ加ヘ益々 之カ完璧ヲ期シツツアル次第 御座リマス		
15"		

技術本部長御説明事項 第一節			事項 御説明 言上 案 時所要
此處ニ御座イマスノハ情報用兵器デ 御座リマス此種兵器ニ依リマシテ敵 情ノ搜索、目標ノ標定、射弾ノ觀測 等ヲ行ヒマシテ各種火器ノ威力ヲ充 分ニ發揮スルモノテ御座リマス			
情報用兵器 10"			

2787

技術本部長 御説明事項 第一部

事項

御説明言上案

所要時間

試製二十八米
観測鏡

二十八米観測鏡（名稱記載標識ヲ指ス）テ御座リマス
平坦大波状地ノ作戦ニ於キマシテ砲兵情報蒐集ノ
爲ニ用ヒントスルモノテ御座リマス
上ノ力（現物ヲ指ス）對物鏡テ之カ（現物ヲ指ス）
接眼鏡テ御座リマス之ニ依リ（現物ヲ指ス）旋回
致シマシテ之ニヨリ（現物ヲ指ス）上方ノ反射鏡
カ俯仰致シマシテ任意ノ地点ヲ観測シ得ル様ニ
ナツテ居リマス對物鏡ノ高サハ七米カヲ二十八
米ノ間任意ノ位置ニ伸縮シ得ル様ニナツテ居リ
マシテ倍率ハ三倍、五倍、七倍テ運行ノ際ハコノ
様ニ（寫眞ヲ指ス）致シマス
只今新議事堂カ見エル様ニナツテ居リマス
（實際ニ御覽願ヘル如ク準備ス）

50"

試製二十八米観測鏡

倍率	三、五、七倍各一
實視界	七度
潜望高（地上高）	七乃至二十八米
對物鏡有効径	三〇糎
總重量	二、三〇〇斤
運動性	野砲程度

二ノ二

技術本部長 御説明事項

第一部

事項

御説明言上案

所要時間

寫真標定機（名稱記載標識ヲ指ステ御座リマス）
砲兵情報班力使用シ敵情偵察及寫真測地ニ使用スルモノテ御座リマシテ焦点距離ニ米ノ手札型寫真機ニ相當スルモノテ御座リマス
之力（寫真ヲ指ス本寫真標定機ニ依リ撮影致シマシタ一例テ御座リマス）

試製

寫真標定機

（甲案ノミ）

試製寫真標定機

合成焦点距離	ニ米
関係口径	千二〇
取角	上下約四〇密位 左右約五〇密位
濾光器	橙、赤、紫外、各一
乾板ノ大サ	八二×一〇七粒（通稱手札板）

35"

三

2789

技術本部長 御説明事項 第一部

事項	御説明言上案	場所 時間
----	--------	----------

火光標定機（名稱記載標識）指す御座リマス
 二箇乃至四箇ノ標定所（配置要圖ヲ指ス）ヲ持
 チマシテ火光A、B、C（配置要圖ヲ指ス）ヲ標
 定致シマスルニハ此各標定所（配置要圖ヲ指ス）
 同一火光即チ「同時時火光」例へハA（配
 置要圖ヲ指ス）ヲ此ノ様ニ（寫眞ヲ指ス）眼
 鏡ヲモチマシテ標定スル必要カ御座リ
 マス即チ同一火光ヲ標定スル爲ニ使用スル
 モノヲ御座リマス

火光標定機

了了”

二四

2790

技術本部 御説明事項

第一部

事項

御説明言上案

所要時間

試製
音源標定機

試製音源標定機（名稱記載標識ヲ指ス）テ
御座リマス
音源標定機ト申レマスルト目視スルコトノ
出来マセ又敵火炮ヘ配置圖ヲ指スヲ之カ
發シマスル發射ノ音ヲコノ様ニヘ配置圖ヲ示
ス（配置致シマシタ受音器即チマイクロ
オンテ受ケマシテコノ所ヘ配置圖ヲ示ス）
音波記録機テ記録スルヘテ御座リマス
レハハフオーム現物ヲ指シコノ記録ノ一例ヲ
御座リマシラコノ波形ノ間隔ハフオーム
現物ヲ指スハ各マイクロオンニ音カ到達
致シマシタ時間ノ差テ御座リマスルカラコ
ノ時間差ノ基ト致シマシテ圖解作業ニ依
リ音源位置ヲ決定致スノテ御座リマス

30"

二五

2791

技術本部長 御説明事項

第三部

(三)
ノ
(一)

事項

御説明言上案

所要
時間

九三式測距機（現物ヲ指ス）ト九三式測高計（現物ヲ指ス）デ御座リマス
九三式測距機ハ一生ニ停止シタル儘直ニ所望ノ地點ヌハ目標迄ノ直距離ヲ知ルコトガ出来マス、又九三式測高計ハ直ニ其ノ場所ノ高サヲ讀算スルコトガ出来ルノデ御座リマスルノデ迅速確實ヲ要スル戦場測量等ニハ欠クベカラザル器材デ御座リマス

45秒

九三式測距機

九三式測高計

御案ノミ

九三式測距機 測距範囲 三〇米――一五〇〇米 倍率 四――一 実線長 四〇〇米 基線量 三米	九三式測高計 型式 測高式 測定精度 一〇米――正五七五米 重量 一五三
---	--

技術本部長 御説明事項		第二部
事項	御説明言上案	
試製廣角写真機（現物ヲ指ス）デ御座リマス 之ニハ附テ取付ケヌハ梯作業機等ニ取付ケマシテ 廣イ正面ノ撮影ヲ致スモノデ御座リマシテ 專ラ 敵情地形ノ偵察ニ用ウルモノデ御座リマス		
25 秒		
時間要		

試製廣角写真機	
廣角	左右 〇〇度 上下 八度
焦点距離	八〇 ㎞
使用乾板（ロールフィルム）	八〇 × 六五 ㎞
重量	本品 二三 ㎏ 展品 三五 ㎏

試製廣角写真機	
寫 角 左 右 上 下 八 度	焦 距 離 八 〇 糎 使用乾板（ゲルマイン） 八 〇 × 六 五 糎
重 量 本 機 二 三 磅 展 品 三 五 磅	

技術本部長 御説明事項

第三部

(第111)

事

項

御説明言上案

所要時間

試製梯作業機（現物ヲ指ス）デ御座リマス
主トシテ大波狀ニ於ケル展望斷崖又ハ城壁ノ攀登
或ハ廣角写真機ニ依ル写真ノ撮影等ニ供スルノデ御
座リマス
唯今カラ梯ノ延伸ヲ實演致シマス

試製梯作業機
（甲案ノミ）

試製梯作業機

重量 五 磅 半

梯ノ延伸高 一 二 米

伸縮所要時間 各 四 〇 秒

1 分 10 秒

2795

技術本部長 御説明事項 第三部	
事項	御説明言上案
試製特種眼鏡ハ現物ヲ指スデ御座リマス 主トシテ偵察用デ御座リマシテ拂曉、 薄暮又ハ星明リニ於テ一。〇〇乃至二。〇米 ノ距離ニアル目標ヲ認識スルコトガ出来 ルノデ御座リマス。	
2.5秒	
所要時間	

試製特種眼鏡	
倍率	二五
瞳孔径	八粒
實像数	一度三〇分
焦点距離	三米
重量	本機 二九粒 展品 三〇粒

 (三)
/ (五)

2796

技術本部長 御説明事項

第三部

事項 御説明言上案

所要時間

九二式大小崩限發火機（現物ヲ指ス）デ
御座リマス
之ハ爆薬ニ豫メ取付ケ竈ニ敵ノ術工物其
ノ他ニ設置シテ所望ノ時刻ニナリマスルト
自動的ニ點火爆發シ敵ニ豫期セザル打撃
ヲ與ヘントスルモノデ御座リマス

九二式
大小
崩限發火機

30秒

九二式大崩限發火機	最大崩限	七日間
精度	誤差一日間ニ五分以内	
九二式小崩限發火機	最大崩限	一二日間
精度	最大誤差五分以内	

2797

技術本部長 御説明事項 第三部	事項 御説明言上案 所要時間	九三式導火索點火管（現物ヲ持ツ） デ御座リマス 爆薬ニ導火索ヲツケタ場合ノ點火用 ニ使用スルモノデ御座リマシテ兩中ニ於テ モ確實且容易ニ點火スルハ特徴デ 御座リマス 唯今カラ確實演技シマス 60秒
-------------------------------	-------------------------------------	--

(四)
/
(二)

技術本部長 御説明事項		第三部
事項	御説明言上案	所要時間
九三式電氣點火機「現物ヲ指ス」デ御座リマス。 鐵橋爆破ノ如ク多数ノ装薬ヲ同時ニ爆發致シマスルニハ是非共電氣點火ガ必要デ御座リマス。 本機ハ斯ル場合ニ使用スルモノデ手廻シニ依リ發電シ同時ニ約三〇發ノ齊發ガ可能デ御座リマス。		
35秒		

（二）
（三）

技術本部長御説明事項 第二部		事項 御説明言上案 所要 間要
九三式戦車地雷 九三式戦車地雷(現物ヲ指ス)デ御座リ マス。 敵戦車ノ攻撃ヲ受ケマシタ場合機ヲ失セ ズニ肉溝致シマシテ其ノ無限軌道ヲ爆破 シ敵戦車ノ運動ヲ不能ナラシムルモノデ御 座リマス此ノ外地表面下ニ浅ク敷設シテ 使用スルコトモ御座リマス		30秒
九三式戦車地雷 重量 一箱四〇〇 爆薬量 〇箱九一〇		

(191)
ノ
(93)

2800

	技術本部長 御説明事項	第 二 部
事 項	御説明言上案	所 要 間
試製自動戦車地雷 戦車地雷 《甲案》	試製自動戦車地雷（現物ヲ指ス）デ御座 リマス 普通ノ戦車地雷ヲ地上ニ敷設使用致シマスル 所ハ極テ多数ノ地雷ヲ要シマスルノデ之ヲ少 クスル爲正面十米ノ範囲内デハ如何ナル位置 ニ戦車ガ通リマシテモ之ニ飛ビ付イテ其ノ 無限軌道ヲ爆破シ運動ヲ不能ナラシメントス ルニ考案デ御座リマス	30秒
試製自動戦車地雷 重 量 四 五 五 . 〇 爆 薬 量 一 五 五 擔任正面幅 一 . 〇 米		

2801

技術本部長 御説明事項

第二部

(四) / (六)

事項

御説明言上案

所要
時間

特種火點
爆破模型

特種火點爆破模型(原物)ヲ指入、デ御座リマス
満露園境ニ於キマスル特種火點ヲ真似テ實際ノ火
點ヲ造リテニ對シテ、特種爆薬三〇〇斤ヲ以テ爆破致
シマシク結果ヲ模型トシタモ、デ御座リマス、コナラ
ガ壁ノ厚サ一米、コナラガ壁ノ厚サ一米五〇ノモ、デ
何レモ一面壁ヲ完全ニ破壊シテ居ルノデ御座リマス
火點ニ特種爆薬ヲ運搬装置スル方法ニツキマシテハ
後程實演致シマス

1分20秒

特種火點爆破模型 壁 厚 一米 爆 薬 特種爆薬 三〇〇斤 破孔大サ 幅三八〇種 上下一八〇種	特種火點爆破模型 壁 厚 一米五〇 爆 薬 特種爆薬 三〇〇斤 破孔大サ 幅三四〇種 上下一六〇種
---	---

技術本部長 御説明事項		事項	
第三部		御説明言上案	
所要時間		九三式大、小時限發火機（現物ヲ指ス） デ御座リマス。 之ハ爆薬ニ豫メ取付ケ竈ニ敵ノ術工物其ノ 他ニ設置シテ所要ノ時刻ニナリマスルト自動 的ニ點火爆發シ敵ニ豫期セザル打撃ヲ與ヘ ントスルモノデ御座リマス	
30秒		九三式 大 小 時限發火機	
九三式大時限發火機 最大時限 七 分 間 精 度 誤差一日間ニ五分以内		九三式小時限發火機 最大時限 一二 分 間 精 度 最大誤差五分以内	

(h)
(一)

2803

技術本部長 御説明事項 第二部		事項 御説明言上案 所要時間
九三式轉動防楯（現物ヲ指ス）デ御座リマス。 近接戦闘ニ於テ低イ姿勢ヲ以テ轉動シ得ル防楯デ御座リマシテ障碍物ノ排除其ノ他各種ノ作業ヲ容易ニスルモノデ御座リマス		25秒
九三式轉動防楯 防楯厚 前面 六寸 側面 四寸 全重量 約 三五磅		

九三式
轉動防楯
《甲案》

（五）
（二）

2804

技術本部長 御説明事項	第二部										
事項	御説明言上案										
所要時間											
試製破壊筒投擲機〔現物ヲ指ス〕デ御座 リマス 氣蓄筒〔現物ヲ指ス〕ノ壓縮空氣ノ壓力ニ依 リマシテ破壊筒ヲ投擲スルノデ御座リマシテ 近接戦闘ニ於テ稍々遠クカラ障礙物ヲ 爆破セントスルモノデ御座リマス。											
25秒											
<table><tr><td>試製破壊筒投擲機</td><td></td></tr><tr><td>投擲距離</td><td>約一三〇米</td></tr><tr><td>壓縮空氣壓</td><td>二〇氣壓</td></tr><tr><td>投擲破壊筒ノ重量</td><td>三、五磅重量一挺</td></tr><tr><td>重量</td><td>三〇磅</td></tr></table>		試製破壊筒投擲機		投擲距離	約一三〇米	壓縮空氣壓	二〇氣壓	投擲破壊筒ノ重量	三、五磅重量一挺	重量	三〇磅
試製破壊筒投擲機											
投擲距離	約一三〇米										
壓縮空氣壓	二〇氣壓										
投擲破壊筒ノ重量	三、五磅重量一挺										
重量	三〇磅										

(九)
/ (三)

2805

技術本部長	御説明事項	第二部
事項	御説明言上案	所要時間
九二式電氣 中聴音機 〔電報機〕	九二式電氣地中聴音機〔現物ヲ指ス〕デ 御座リマス 坑道戦ニ於キマシテ敵ノ坑道作業ヲ探 知スルノニ使用致シマス、 聴音距離〔掘示板ヲ指ス〕ハ十字鍬掘開 音ノ場合約百米デ御座リマス。	20 秒
九二式電氣地中聴音機 十字鍬掘開音 約一〇〇米 聴音距離 小槌打撃音 約一一〇米 全備重量 六五kg		

2806

技術本部長 御説明事項

第三部

(五)
ノ
(五)

事項

御説明言上案

所要
時間

試製潜行
作業機
〔草案〕

試製潜行作業機(掘物ヲ指ス)ヲ御
座リマス
壕ヲ掘鑿シツツ前進スルモノデ御座リ
マシテ主トシテ陣地戦ニ於テ迅速ニ所
望ノ突撃路ヲ掘鑿シ或ハ火點ヲ轉
覆制壓スルニ使用ヒントスルモノデ御
座リマス

30秒

試製潜行作業機

重量 約九匁

發動機 一二。馬力重油機関

掘鑿速度 時速約七〇—一〇〇米

掘鑿壕断面 幅一米八〇深サ一米四〇